

都市大塩尻は第1セットを落とし、第2セットも26-27と追い込まれた。サーブ権は文京学院大女。ネットをかすめたボールは、懸命な跳び込みも美らず都市大塩尻コートに落ちた。夏のインターハイ準優勝校相手に、第2セットで大接戦を演じながらも、あと一歩及ばなかった。

あつさりを取られた第1セットの流れを変えたのは、1セット終盤からコートに入った

## 努力のトスワークで奮闘 都市大女子・小林依舞莉

中学時代は全国大会の経験もなく、身長162センチの小柄な無名のアタッカーだった。全国の舞台に憧れて都市大塩

【都市大塩尻-文京学院大女】第2セット、懸命なトスワークでリズムをつくった都市大塩尻の小林



たセッターの小林依舞莉(3年)だった。懸命なトスワークでブロックをかく乱し、攻撃にリズムをもたらした。中学時代に全国のベストセッ

たセッターの小林依舞莉(3年)だ。入部でボジションに起用された。慣れないボジションに苦難の連続で、さらに中学時代に全国のベストセッ

集大成として迎えた今大会。1回戦で先発出場するも、弱気なトスで途中交代となった。「悔しかった。力を最大限

に発揮できなかった」。それで最後の大会。精いっぱい

頑張ろう」と奮い立って3回戦に臨んだ。サーブレシープが乱れる中、「トスで修正するの役割」と奮闘し、3年かけて築き上げてきたトスワークをいかになく披露した。

1回戦の後、ふがないプレーに一人涙した小林。「日本一」を目指す戦いに幕は下りてしまったが、最後にやっと笑顔に戻った。(山浦雄一郎)

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。  
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。